



# 佐世保市立赤崎小学校

所在地 佐世保市鹿子前町330番地

校長 藪 英彦

児童数 356名

学級数 15学級



「笑顔でつながる あたたかい学校

～動と静のけじめ・あたたかいつながり～

あ… あかるく あいさつできる子

か… かんがえて こうどうできる子

さ… さいごまで あきらめない子

き… きまりをまもり けじめのある子

## 1 テーマ

「心豊かにたくましく生き抜く赤崎っ子」

## 2 目的

- (1) 体験を通じた学習を展開することによって心の教育を実践し、「生きる力」の育成を図るとともに、学校が児童一人一人にとって楽しい学びの場となることをめざす。
- (2) 自分の考えや思いを明確にさせ、対話的な学習活動を通してその考えや思いを伝えることのできる児童の育成をめざす。
- (3) 自然とのふれあい体験を通して児童の情操を高め、いのちを大切にする心を育成する。

## 3 実践内容（各学年の取組）

### ○第1学年「伝承遊び交流会」

地域の方を約60名お迎えして「伝承遊び交流会」を行った。昔遊びでは、おはじき・お手玉・けん玉・竹ぼっくり・ぶんぶんゴマ・竹トンボなどのいろいろな遊びを、主として自治協議会の方々に教わりながら楽しく行った。優しく温かく教えてもらい上手に遊ぶことができるようになり、笑顔の絶えない楽しい時間を過ごすことができた。



### ○第2学年「レッツゴー！町たんけん」「させば美化プロジェクト」

3つのコースに分かれて「町たんけん」を実施した。事前に、見てきたいこと尋ねたいことを考え、挨拶やインタビューの練習を行った。当日は、地域の方とたくさん言葉を交わし交流を深めることができた。また、「町たんけん」後の学習では、気づいたことや楽しかったことをカードにまとめたり、みんなに教えたいことをクイズにしたりして発表した。後日、お礼の手紙を模造紙にまとめ、見学施設に届けた。児童は、今まで知らなかった赤崎小学校周辺のことを知るができ、自分たちが住む町に愛着をもつことができた。



佐世保市の事業「させば美化プロジェクト」に参加した。環境委員会の子どもたちが、花の苗をプランターに植えた。児童は、この活動を行ったことで、赤崎校区の良さを感じ取ることができた。

### ○第3学年「九十九島はかせになろう」

「九十九島はかせになろう」というめあてをもち、九十九島水族館「海きらら」、「九十九島ビジターセンター」の見学を行い、学んだことの中から一人一人が自分の調べる課題の設定を行った。次に調べ学習を行う計画を立て、「九十九島の自然」「海の生き物」「クラゲの種類」「海の環境問題」など様々なグループを作り、計画に沿って、本やパンフレット、インターネットなどを使い、調べ学習を進めていった。2回目の水族館・ビジターセンター見学は、自分の課題に沿って質問や見学を行った。その後、夏休みにパスポートを活用して自主的に見学し、さらに学習を深める児童もいた。調べた内容、感想はグループごとにまとめ、発表した。



環境省の「子どもパークレンジャー」事業に参加し、長尾半島の自然観察を行った。西海国立公園内の自然を守り、九十九島の自然に親しむ目的で、環境省の自然保護官やビジターセンターの学芸員の方々と共にフィールドワークを行った。ビジターセンターの方に来校していただき、環境についても深く学ぶことができた。九十九島の地形や自然の特色についての説明を受け、これからも自然を見守っていくことを決意していた。

### ○第4学年「高齢者疑似体験」「障がい者体験」「ふるさと環境自然体験」

佐世保市福祉協議会の協力を得て、高齢者疑似体験学習・障がい者体験学習を実施した。様々な装具を着用し、「階段の上り下り等」の体験学習を行った。思った以上に体の自由が利かないことを実感することができた。また、介助の言葉かけや手の差し伸べ方で、不安感が薄らぐことや、動きやすくなることもわかり「ささえ愛」の大切さを感じていた。障がい者スポーツについて、講義を受け、実際に車いすバスケットボールを体験し、車いす操作の難しさや足の不自由さについて理解を深めることができた。ふくし学習を通して、ふくしとは、『㊦だんの㊧らしの㊨あわせ』だと学ぶことができたので、この学習で学んだ「人に対する接し方」を様々な生活場面でも活用できるよう継続指導してきた。



佐世保市の「少年科学館理科学習支援事業及びふるさと環境自然体験学習事業」に参加した。3年生のときに体験した九十九島水族館「海きらら」、「九十九島ビジターセンター」の見学を振り返り、ふるさとの環境と自然について、学習を深めることができた。

### ○第5学年「受け継ごう平和への思い」

長崎市に行き、原爆資料館を見学した。また、「平和ウォーク」を実施し、「山里小学校方面」、「城山小学校方面」、「山王神社方面」の3コースに分かれ被爆遺構を見学して回った。「平和への思い」を実際に被爆地に立ち、被爆遺構の前でこれまでに学んだことを思い返すことにより、原爆の恐ろしさや、戦争の悲惨さ、反戦への思いを改めて強く持たせることができた。



### ○第6学年「キャリア教育」

保護者をお招きして、キャリア教育を実践した。美容師やアリアケジャパンの方の講話を聴いて、子どもたちは、将来の職業やキャリアについて深く学ぶことが出来た。「キャリア教育」について、自分の考えや将来について発表して、自分の将来の夢に向かって、考えるよい機会となった。



## ○「あいさつ運動」

「笑顔でつながる あたたかい学校」の実現をめざし、地域の見守り隊のあたたかい挨拶のおかげで、子どもたちの元気な挨拶が増えた。

また、一校一徳運動スローガンの掲載された「のぼり」を、学校周辺に立てたりして啓発運動を行った。児童のあいさつに対する意識は高まっている。



## ○「学力向上」

### ① 校内研究の充実

今年度。全職員でタブレット端末を活用した授業について研修を深め、様々な授業の場面で、教師自身が意欲的に活用できるように全職員で取り組んだ。「チーム赤崎で取り組む授業及び公務の情報化 様々な場面での ICT の活用を通して」を研究テーマに設定して、佐世保市教育センターから講師をお招きして職員の研修を深め、全職員で共通実践を図り、年間を通じて児童の学力向上や公務での情報化の活用を深めることができた。



### ② 学力調査の活用

学力調査については、4年・市の学力調査（6月）に合わせ、特色の予算を活用して2、3年生においても標準学力調査（国・算）を実施した。7月には、5年・県の学力調査を実施し、8月には、その結果を各学年で分析し全職員で報告会を行い、今後の学力向上に向けての取組を確認した。そして、「書く活動の充実」「復習の徹底」に重点を置き、全校的に取り組むことを共通理解した。学校としての課題や学年の課題などを見極め、児童の実態に沿った補充問題の実施などにも取り組んだ。

## 4 成果と課題

本校の教育活動は、まち（九十九島国立公園、海きらら、森きらら等の豊かな自然）、ひと（図書ボランティア、赤崎っ子見守り隊等の豊かな人材）、しごと（豊かな施設や事業所）に支えられている。本校には、これらの「まち・ひと・しごと」を生かした能動的な学び（アクティブラーニング）に取り組むことができるプログラムがある。各学年ごとに総合的な学習の時間を中心として特色ある教育活動を実践している。その学習の中で児童の心の中に地域を愛する心や郷土を大切に思う心が育ってきている。

今後の課題は、自尊感情をさらに高め、様々な教育活動を支える児童の学力を向上・定着させることである。静と動のけじめをつけさせるため、試行錯誤しながら様々な取組を行い、日々情報を発信してきた。保護者、地域との情報共有に努め、理解深化を図ってきたと言える。

今後も、本校の児童の実態をふまえながら、「復習の徹底」を掲げ、家庭とのさらなる連携を図る必要がある。今後も、「自尊感情」と「学力」についての課題を克服していきたい。